

【高等学校の部】 優秀賞

出会いとつながり

大分県立日田高等学校 1年

甲斐 潤樹

僕は今年高校生になりました。プリントの拡大、遮光メガネの使用、ヘッドホンの使用、等、合理的配慮を受けて学校生活を送っています。僕の通う高校で同じような生徒はいません。そんな中、先生方は僕と向き合い、どのようにすればみんなと同じように学べるか考えてくれています。僕がこのような恵まれた環境で学べるようになるまでには、多くのつまずきや葛藤がありました。そして助けてくれた人、支えてくれた人がいました。

小学校の頃は、みんなが簡単に出来ることが僕にはすごく時間がかかったり出来なかったりしたので、学校が嫌いでした。先生からは「頑張ればできる。」と言われ続けたので、頑張りました。それでもみんなのように出来なくて、自分がすごく嫌いでした。学校が嫌で通えなかった時期もあります。

そんな時に、ある大学の支援プログラムに参加しました。そこでは、苦手なことを克服するために頑張るのではなく、どうすれば出来るかその方法を考えればいいと気付くことが出来ました。そして、障がいを持ちながらも、自分の特性を受け入れて、道を切り開いている多くの先輩方を見てかっこいいと思いました。僕も自分らしく頑張ろうと思いました。それからは苦手な読み書きにはiPadを使い、騒がしい時はヘッドホンを使用しました。勉強が一気に楽しくなって、もっと学びたい、僕は出来ないのではなくてやり方が違っていただけだと気付きました。

中学では、入学前から母と何度か学校に行って合理的配慮を求めました。「読むこと書くことは諦めたの？」と聞く先生もいました。「読むこと書くこと、学ぶことを諦めないために配慮が必要なんです。とりあえず僕のやり方を見てください。」とお願いしました。こうして僕の中学校生活は「とりあえず」で始まりました。最初は友達にも先生の中にも、みんなと少し違う僕のやり方を快く思わない人がいました。そんな時は、信頼できる先生に何度も相談して助けてもらいました。気持ちを言葉で伝えることの苦手な僕に、先生は交換ノートを作ってくれて話をじっくり聞いてくれました。一緒に過ごして僕を見てもらい、心を割って話し合うことで、いつの間にか僕とみんなの境界線はなくなりました。やり方は少し違っても僕はみんなと同じように学び、部活動に励み、最高の仲間と充実した学校生活を送ることが出来ました。

入試で問題の拡大や別室受験などの配慮を受けて希望する高校に合格した時はすごく嬉しかったのと同時に不安もありました。また先生に一から説明してお願いしなくてはいけない、新しい友達にわかってもらえるだろうか？と考えるとすごく怖かったです。そんな時は中学三年間僕を支えてくれた先生の最後の言葉を思い出しました。「出会いを大切に。」これから出会う人、環境、全てを大切にしようと思いました。僕のような困りを持つ人がいることを知ってもらえるチャンスかもしれない、新たな出会いで新しい考え方やものの見方が出来るようになるのかもしれないと前向きに捉えました。

不安は外れて高校生活はスムーズにスタートしました。中学の時の配慮はそのまま引き継がれています。どの先生も僕に困りがあることはわかっているので「これで大丈夫？」「どうすれば出来る？」と声をかけてくれます。僕もそれぞれの先生に自分の言葉で困りを伝えています。先生方が僕を分かろうとしてくれているのが伝わるので僕は安心して高校生活が送れています。

よい先生や環境、仲間に恵まれて、こうして僕は自分らしく生活をしています。けれども、困りを持ちながら気付いていない人、困っているのに伝えることが出来ない人、自分が悪いと思って諦めている人もいます。そんな人が少なくなるように僕は自分の経験や感じたことを伝えたいです。そして支えてくれた人達のためにも、僕らしく人生を楽しみ、夢に向かって頑張ります。

